

## ワーク・ライフ・バランスを推進するための働き方・休み方の見直し「働き方改革」局長トップ対談 **沖縄通信ネットワーク株式会社 仲地正和代表取締役社長**

### 働き方改革について

社長に就任し4年目となりますが、毎年社員を6～7人の小グループに分け、グループ対話（社員ミーティング）を行っています。私からの問いかけは「我が社の役割と価値は何か、また、そこで働く自分の価値と役割は何か」です。当初この問いかけに多くの社員がとまどっていましたが、私の「働くことは楽しく、かつ自分の価値を高めるもの」という思いが伝わるにつれ、年々議論も深まり、社員の働くことや会社に対する意識が変化しているのを感じています。また、社員の意識の変化に伴い、時間管理の意識も高まり、残業時間も減ってきています。



1年前から「業務の可視化」に取り組んでいます。これは、部、グループ、個人単位で業務の「棚卸し」と「フローチャートの作成」を行うものです。当初は役員からも作業量が膨大になるなどと反対の声もあがりました。確かに作業は大変ですが、無駄な作業・行程の見直し、業務改善・効率化、属人化の排除等会社・個人の成長には必要不可欠なものだと考えました。ようやく近々とりまとめができる段階ですが、私はこのとりまとめは第一段階のもで、「業務の可視化」は永続的に取り組まなければ会社・個人の成長はないと思っています。何事にも当てはまるとは思いますが、一番重要なことが、目の前の課題にもみ消されてしまっていないか、を常に意識していくことが重要だと考えています。

### RPAの導入による効率化

「業務の可視化」に着手したことで、RPA（Robotic Process Automation）の導入につながりました。RPAは人が行うパソコン操作をソフトウェアに覚えさせ、デスクワークの定型作業を自動的に行わせるものです。RPAは作業時間の大幅削減（5時間半の作業が29分に短縮するなど）、ノーマスというメリットはもちろん大きいのですが、社員の肉体的・精神的負担の解消ということも大変大きなメリットです。連休明けなどの業務が集中する作業をRPAに任せることで、以前は連休明けの朝は憂鬱な顔で出勤していた社員が今では笑顔で出勤してくれています。ツールとしてデジタル化は有効ですが、重要なのはアナログであり、人を大切にする会社でなくてはいけないと考えています。社員には、単純作業に充てていた時間は、考えることに使おう、家でしっかり休み健康で元気に働こうと伝えています。



### 現状と成果

項目	2016年度	2017年度	2018年度
有給休暇取得率／年	83%	82%	77%
平均残業時間／月	19時間	15時間	13時間
離職率／年	1.49%	1.28%	2.22%



### 沖縄労働局長より

「社員の価値と役割は何か」という根源的な問いかけに始まり、業務の「棚卸し」という困難を伴う作業を経ることによって、RPAという定型業務の自動化を可能にし、業務の効率化を達成されていることは、働き方改革・生産性向上を進めるうえで、大変参考になるものでした。RPAを用いたサービスは県内事業場に提供されているとのことであり、その実力が知れ渡ると普及が進み、働き方改革などの取組みに一石を投じるのではないかと思います。

### <企業概要>

名称：沖縄通信ネットワーク株式会社、業種：電気通信業  
 所在地：那覇市、労働者数：130名（受入出向者含む）